

第1回

藝術祭

1946



後援

在外同胞救出學生同盟

品不足ニテ御不便カケマシタガ
諸材料極力揃ヘテ居リマス

是非一度御來店の程を

◆ 繪畫材料の専門店 ◆

ミラン社の
ボスターカラー
油彩 水彩 水彩
ペンテックス

美蘭社
本店 東京上野池ノ端仲町通り
賣店 東京美術學校内

CANDID PHOTO STUDIO

明るい自由なポーズを

Tee Room

BLUE LINE

おコーヒーと軽い音楽を

省電御徒町驛前

化粧品ト装身具ノ店

菊屋

カメラ
現像 焼付 高價買入
富士商會

喫茶

ニッサンソーダ
ファウンテン

上野公園前

卷頭言

第一回上野杜藝術祭にあたりて

會長音楽學校校長 小宮 豊隆

藝術の使命は社會と接觸し社會に浸透し社會を高める點にある。
その意味で社會と交渉のない藝術は藝術の外道である。農民が一年
の沈潜を秋の收穫によつて輝やかしい區切をつけるように、上野に
住い美術と音樂との學徒は、一年の沈潜を藝術祭によつて發揚し、
自分達の收穫をもつて何等かの意味で社會に寄與する所あらうとす
る。その寄與がどれだけの價值を持ち得るかは、一に社會の批評に
俟つ外はない。ただ我々の期待する所は、爾後の一年一年の沈潜が
年毎に輝かしい收穫を齎らす事によつて、年毎にその寄與が輝かし
いものになつて行く事である。

目次

一、卷頭言 小宮豊隆	1
一、藝術祭行事一覽表	2
一、藝術祭に就いて	2
一、「檢察官」配役表	3
一、「檢察官」のゴロリについて 岩田健三	3
一、らくがき 小巻元隆	4
一、東京音楽學校洋樂生徒演奏會	5・8・9
一、東京音楽學校洋樂教官演奏會	6・7
一、歌劇「カルメン」解説	9
一、「新世界」より 金子	11
一、東京音楽學校邦樂演奏會	12・13・16
一、邦樂演奏解説	15・16
一、東京美術學校展覽會藏品解説目錄	16
一、運動會プログラム	23

ゴ ー ゴ リ (米川正夫譯)

検 察 官

喜劇五幕
東京美術學校演劇部公演

演 出 岩 田 健 (壘 3)
小 卷 元 隆 (壘 2)

演出指導 芥川比呂志

装 置 小 林 久 三 (油 3)
照 明 品 川 洋 一 (圖 2)
舞臺監督 後 藤 市 三 (豫 油)
同 助 手 福 富 悦 子 (豫 油)
小 道 具 江 畑 浩 二 (豫 油)
衣 裳 小 林 和 子 (豫 油)

配 役

市長 アン・トン・アントーノキツチ 壘 三 岩 田 健
その妻 アン・ナ・アンドレーヴナ 豫 保 川 壽 子
その娘 マリヤ・アントーノヴナ 同 大 島 芳 子
慈善病院監督 アルチエーミイ・フリボキツチ 圖 一 佐 谷 晃 能

判事 アム・ム・フョードロキツチ 壘 二 内 田 英 也
警務監督 ル・カート・ルキツチ・フロ・ホフ 豫 早 川 英 熙
その妻 イヴン・クジミツチ・シュベ・キン 豫 金 子 美 代 子
郵便局長 ビョートル・イヴ・ノキツチ・ド・キンスキー 豫 大 野 俊 夫
町の地主 ビョートル・イヴ・ノキツチ・ド・キンスキー 豫 大 野 俊 夫

ビョートル・イヴ・ボブ・テンスキー 師 二 橋 本 純 夫

警察署長 スチエバン・イリイッチ・ウホキョールトフ

巡 査 スキストウ・ノーフ 豫 柳 生 一 夫
デ・エルジ・イ・モールダ 豫 森 東 一 郎
市 長 下 男 ミーシユカ 豫 後 藤 市 三
町の名士 フョードル・アントレーボツチ・リユーリユコフ 豫 池 田 春 夫

イヴン・ラーザレキツチ・ラスターコフスキー 油 三 小 林 久 三
イヴン・イヴ・ノキツチ・コロブキン 肖 三 陶 山 實 義

宿屋の給仕 イヴン・アレクサンドレトボツチ・リユーリユコフ 壘 三 奥 野 肇
イヴン・アレクサンドロキツチ・フレスタコフ 豫 後 藤 市 三

その下男 オシツプ 圖 二 小 卷 元 隆
中 尾 増 本 誠 視
猪 又 楠 原 (豫)
西 岡 (〃)
寺 西 (〃)
尖 戸 (〃)
加 藤 (〃)
福 富 (〃)

解 説

「検察官」のゴ ー ゴ リに就いて 岩 田 健

「検察官」は小説「死せる魂」と共にゴ ー ゴ リの藝術の頂点を形づくつてゐます。彼ゴ ー ゴ リを評したベリンスキイの言葉に従ふまでもなく、彼の作品は「吾々に完き人生の眞實を與へ、しかもこの

第一回上野杜藝術祭行事一覽

日 時	7 木	8 金	9 土	10 日	11 月	12 火
九 時	藝術祭式典 ゴ ー ゴ リ 米川正夫譯 『検察官』小卷元隆 演出 東京美術學校演劇部一同	洋樂演奏會 東京音樂學校生徒演奏	ゴ ー ゴ リ 米川正夫譯 『検察官』小卷元隆 演出 東京美術學校演劇部一同	邦樂演奏會 長唄(杵屋六左衛門) 琴曲(宮城道雄) 東京音樂學校 教官及生徒演奏	洋樂演奏會 東京音樂學校生徒演奏	洋樂演奏會 東京音樂學校生徒演奏
二時—五時	交響曲 『新世界』ドボルジャルク 大合唱『天地創造』ハイドン 歌劇『カルメン』拔萃より 東京音樂學校生徒全員	ゴ ー ゴ リ 米川正夫譯 『検察官』小卷元隆 演出 東京美術學校演劇部一同	洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏	洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏	洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏	洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏
二時—五時	交響曲 『新世界』ドボルジャルク 大合唱『天地創造』ハイドン 歌劇『カルメン』拔萃より 東京音樂學校生徒演奏	洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏	洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏	洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏	洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏	洋樂演奏會 東京音樂學校教官演奏

八日—十一日迄
東京美術學校
內校學術展覽會

東京美術學校學藝大覽會

藝術祭に寄す

音 校 澁 谷 傳

音校と美校の生徒の間に文部省の「藝術祭」と呼應し「我等の手でもやらうぢやないか」といふ機運が高まり、その構想等に就き話が交はされたのは、一學期の末の頃であつた。長い休暇を終り、兩術の授業開始と共に此の計畫は急速に具體化し、併も今年を第一回上野藝術祭とし、これを毎年秋、上野の杜の行事としようといふ話さへ生れて來た。勿論我々は、此の行動の中に自己陶醉するの愚を演じるつもりではない。觀念の玩具いぢりに終始するつもりでもない。大地にどつかと脚をふまへ、文化運動の烽火を上野の空高く擧げそして藝術の炬火を焰々と燃え上らせ度いのである。上野藝術祭の發足に當り、その隆昌と發展を衷心より祈念するものである。

11月8日(金) 午前10時開演 東京音楽学校奏樂堂

- | | | | |
|----------------------------|-------------|--------------|----------------|
| 1. 女 聲 合 唱 | 流 浪 の 民 | シューマン | 指揮・柴田陸屋教官 |
| | 美しき青きドナウ | ヨハンシュトラウス | 師範科二・一年女生徒 |
| 2. ピアノ獨奏 | ソナタ作品二二 | | |
| | 出来るだけ速く | シューマン | 田 尾 光 子 |
| | アングンティエーノ | | |
| | スケルツォ | | |
| | ロンド(プレスト) | | |
| 3. ソプラノ獨唱 | 秋 | フォーレ | 富持登美子 |
| | 夢のあと | フォーレ | 伴奏・野田量子 |
| | 悲しき歌 | デュパルク | |
| 休 憩 | | | |
| 4. チェロ獨奏 | 組曲ニ調(古典組曲) | デルベロワ | 堀 江 泰 |
| | 前奏曲 | | 伴奏・園田高弘 |
| | メニユエツト | | |
| | 挽 歌 | | |
| | ナポリ風の踊り | | |
| 5. ソプラノ獨唱 | 憩へ我が魂 | リヒアルド・シュトラウス | 荒 牧 規 子 |
| | 獻 呈 | // | 伴奏・森 繁 子 |
| | 戀人よさらば | // | |
| | 小 夜 曲 | // | |
| 6. ヴァイオリン、ピアノ二重奏ソナタ(春)作品四〇 | | ベートウエン | ヴァイオリン・後 藤 紀 子 |
| | 第一章 アレグロ | | ピアノ・吉岡加奈子 |
| 7. バリトン獨唱 | 歌劇 タンホイザーより | 夕星の歌 | ワグナー |
| | 我が憩ひの地 | シューベルト | 伴奏・福永陽一郎 |

眞實は着想の純一さと結びついてゐるのです。そして更に「彼は人生のあらゆる美しいもの、人間的なものを喜んで表現する一方、その醜いものをさらけ出す事を嫌まない。人生が彼にあつては眞の肖像畫となつてゐて、例へば作中人物の動作の一つ一つの顔の雀斑に至るまで、凡てが驚嘆すべき如實さで取入れられてゐる」と云つてベリンスキーの言葉が如何に適切に彼の作品を評してゐるかと思ふ事は「検察官」一篇についても充分に分りの事と思ひます。實際彼はブーシキンによつて培はれたリアリズムをロシア文學史上に充分に成長させた大寫實主義作家であると同時に、比類のない諷刺作家でもあつたのでした。「死せる魂」に於てもさうである様に個々の作中人物がグロテスクなまでに誇張されて描かれて居りながらも、深い「人生の眞實」を内面に備へてゐるため、單なるボンチ繪に終らずして、繪畫に於けるドオミエの如く、いやそれ以上の眞實性を以て、人生の生きた典型として、躍々として吾人に迫つて來るのは、透徹せる人生觀照より出發した彼の驚嘆に値する性格描寫の魔力でありませう。

「いや驚いた戯曲だ。みんな散々にやつつけられた。だが一番ひどくやられたのはこのわしだ！」一八三六年「検察官」初演の當日、劇場へ臨幸した當時の皇帝ニコライ一世のこの言葉は、この偉大な劇作家の手腕を評し得て妙と云はねばなりません。

彼の他の唯一の戯曲作品と云つてもいい小品喜劇「結婚」に於ても、之は明瞭にうかがひ知る事が出来ます。とまれ以上僅か二作品を以て、ロシア戯曲史上、否世界の戯曲史上に不滅の地位を獲得した彼の劇作家的手腕は、彼の如き不世出の天才にして始めてなし得る所でありませう。

らくがき 演出 園二小 卷 元 隆

藝術祭公演の「検察官」の演出者として、潜越ながら私が紙面を汚さして戴きます。

演劇に對して全くの素人の私達が、この藝術祭に何か云はれて、色々脚本の選擇に迷つたのですが、音楽學校で「カルメン」をやると云ふ話を聞き、我々も小さいものをいゝ加減にまじめ上げるより玉碎してもよい何か大きいものをいゝ加減にまじめ上げるより事になつて、この「検察官」を撰んだ次第です。今更愚痴でもありませんが、初めから無理な事は解り過ぎる程解つて居りました。案の定稽古を始めて見ると、この世界的な大戯曲は、マツテルホルンの如く私達の前にそゞり立ち、頂上を極めるどころか、私達に麓に低回して仰ぎ見ながら徒らに嘆聲を發するばかりでした。それでも私達は自分達の若さと熱さを頼みに、登れる所迄登つて見る決心で居ります。「さうだ、熱さへあれば乏を唯一の合言葉として。僅か一ヶ月の練習期間で、而もこの大戯曲に取組まうと云ふ私達の身のほど知らずをお詫びすると共に、下手でも熱のある芝居をと云ふ私達の愚かな願ひを、御支持下される様、紙上失禮ながらお願い致します次第です。

美校演劇稽古場にて夕日をあびつゝ。

樂器部新設(賣場二階)

ピアノオルガン 管樂器
絃樂器 樂譜 總譜
蓄音器 各社レコード ラヂオ及ビ附屬品

銀座シバタ

營業品目…洋装・雜貨・化粧品・貴金屬・書籍

11月10日(日)午後2時開演

- | | | |
|-----------|---|-------|
| 1. オルガン獨奏 | コラール 4短調 セザールフランク | 秋元道雄 |
| 2. ソプラノ獨唱 | 歌劇「トスカ」より 懐しき棲家 プッチーニ
歌に活き戀に活き | 根本ツネ子 |
| 3. ピアノ獨奏 | ソナタ 作品五十七(熱情) ベートーヴェン
アツサイ アレグロ
アンダンテコンモート
アレグロマノントロツボプレスト | 宮内鎮代子 |
| 4. テノール獨唱 | 曲目未定 | 柴田睦陸 |

休 憩

- | | | |
|---------------------|---|--------------|
| 5. ピアノ獨奏 | 謝肉祭 作品九 シューマン | 遠見豊子 |
| 6. メッソソプラノ獨唱 | 「詩人の戀」より シューマン | 田中伸枝 |
| 7. ヴァイオリンピアノ
二重奏 | ソナタ 變ロ長調(ケツヘル三七八番) ヴァイオリン
モーツアルト ピアノ
アレグロ モデラート
アンダンテイーノ ソステヌート
エ カンタービレ
ロンド(アレグロ) | 巖本眞理
今井治郎 |

新 築 開 店
畫筆ゑのぐの御用は
田 中 金 華 堂

東京・下谷・御徒町・2128
銀座賣店 銀座松坂屋 美術部内

11月9日(土)午後2時開演

- | | | |
|-----------|---|-----------------------------|
| 1. ピアノ獨奏 | 前奏曲 作品三の二 ラフマニノフ
月の光 ドビッシー
交響的練習曲作品十三 シューマン | 梶原完 |
| 2. バリトン獨唱 | R・シユトラウス 作曲
うちかけよ 汝が黒髪 op19の2
萬靈節 op10の8
密やかなる誘ひ op27の3
明日こそは op27の4
獻呈 op10の1 | 畑中良輔
ピアノ伴奏・梶原完 |
| 3. 作品發表 | イ) ソナタイーヌ
アレグロモデラート
アンダンテ
アレグロ
ロ) おどぎばなし 舞踊組曲 | ピアノ獨奏・宅孝二
ピアノ二重奏・梶原完・宅孝二 |
| 4. フルート獨奏 | 旋律 ノブロ
ハバネラ ラヴェル
ハンガリア田園幻想曲 ドツブラー | 森正
ピアノ伴奏・水谷達夫 |
| 5. アルト獨唱 | 牢獄にて アーン
我に若し翼あらば アーン
五月 アーン
祈り ヴォルフ
徒歩の旅 ヴォルフ
隠棲 ヴォルフ | 横田ふみ子
ピアノ伴奏・宅孝二 |

休 憩

- | | | |
|-----------|--|---|
| 6. ピアノ五重奏 | ピアノ五重奏曲 曲作品十六 ベートーヴェン ピアノ
グラーヴェーアレグロマノントロツボ オーボエ
アンダンテ クラリネット
マンド(アレグロマノントロツボ) フアゴツト
ホルン | 水谷達夫
鈴木清三
北爪利世
中田一次
岡田朗 |
| 7. ソプラノ獨唱 | タゴールの三つの詩
夜のほのぼのと明けるころ } アルファアーノ
日毎に來りては } ピアノ伴奏・水谷達夫 | 浅野千鶴子 |
| 8. 絃樂四重奏 | 絃樂四重奏曲作品十八ノ三 ベートーヴェン
アレグロ アンダンテ コンモート
アレグロ
プレスト | 第一ヴァイオリン 兎東達夫
第二ヴァイオリン 岩崎吉三
ヴィオラ 三瓶十郎
セロ 小澤弘 |

11月7日(木) 非公開 開演東京音楽学校奏樂堂

11月11日(月) 午後2時開演

1. 絃樂四重奏 ニ長調(ケツヘル五七五番)モツアルト 第一ヴァイオリン 江藤 俊哉
アレグレンツテ 第二ヴァイオリン 井上 明子
アンダンテ ヴィオラ 加井 令一
メヌエット(アレグレッツト) セロ 井上 令一
アレグレッツト
2. 重 唱 歌劇「カルメン」抜萃 ミカエラ ソプラノ 久保田 喜代子
フラスキータ ソプラノ 池田 綾子
ミカエラ ソプラノ 池田 弘成
メルセデス ソプラノ 池田 子章
カルメン メツオ テノール 池田 久
ドンホセ テノール 岩崎 村野
エスカミリオ バリトン 藤 久
伴奏
3. 管 絃 樂 交響曲第5番(新世界より)ドボルザーク 指揮 金子 登官教
第一樂章 アダチオーアルレグロモルト 生徒オーケストラ
第二樂章 ラルゴ
第三樂章 スケルツォ(モルト・ヴィヴァーチェ)
第四樂章 アレグロコンフオコ
4. 混 聲 合 唱 聖譚曲「天地創造」ハイドン 指揮 中田 一教
(天地創造の讃歌) 生徒オーケストラ
独 唱 ガブリエル ソプラノ 内田 久子
ウリエル テノール 小田 野正之
ラファエル バス 日比 野顯彦

休 憩

歌劇「カルメン」の解説
作曲者 ビゼー Georges Bizet (1838—1875)
物語の原作者 メリメー Prosper Mérimée (1803—1870)
作 詞 者 メイラック Henri Meilhac (1831—1897)
アレヴィー Ludovic Halévy (1854—1908)
時代 一八二〇年頃
場所 スペイン國セヴィリア及近郊
出演生徒及び配役
ドンホセ 騎兵伍長 テナー本四 岩崎 成章
カルメン ジブシー女 メツオソプラノ本四 池田 弘子
ミカエラ ホセの許婚 ソプラノ本四 池田 綾子
メルセデス ジブシー女 ソプラノ本四 池田 子章
フラスキータ ジブシー女 ソプラノ本四 久保田 喜代子

11月11日(月) 午前10時開演

1. 吹 奏 樂 チョコレートの兵隊 オスカー・シユトラウス 指揮 北爪利世教官
「雪娘」より踊 リムスキー・コルサコフ 生徒吹奏樂班
2. 作 品 發 表 前 奏 曲 } 齋藤高順曲 ピアノ獨奏 坂本 陽子
タ シ ゴ }
練習曲第一番(ハ調) }
即興舞曲 第六番 } 奥村 一曲
3. フル ー ト 獨 奏 フルート協奏曲第二番ニ長調 モーツアルト 川崎 優
第一樂章アレグロアペルト 伴奏 久野 穹
4. ピ ア ノ 獨 奏 バラード作品二三 ショパン 奈良 洋子
5. ソプラノ獨唱 歌劇「ラ・ボエーム」より ブッチーニ 山田 紗織
ムゼッタのワルツ
歌劇「カルメン」より ビゼー 伴奏 加藤 るり子
ミカエラの詠唱

休 憩

6. ヴァイオリン獨奏 ヴァイオリン協奏曲第二番 作品二二 ウィニアウスキー 江藤 俊哉
ニ短調 伴奏 江藤 玲子
アレグロモデラート
ロマンス
アラジンガーラ
7. メツオソプラノ 眠り安らへど ブラームス 松内 和子
五月の夜 ブラームス 伴奏 關原 和子
歌劇「サムソンとダリラ」よりサンサアンス
8. ピ ア ノ 獨 奏 前奏曲コラールと遁走曲セザール・フランク 藤島 義勝
9. ソプラノ獨唱 歌劇「蝶々夫人」より 安部 けい
或る晴れた日 ブッチーニ
歌劇「ローエングリン」より 伴奏 鈴木 よし
エルザの夢 ワーグナー
10. 混 聲 合 唱 ハレルヤ ヘンデル 指揮 酒井弘教官
其の他 師範科四年生徒

「天地創造」の解説

オラトリオ(聖譚曲)は従来多く宗教的題材を用、教會内で演奏したが、ハイドンの作「演奏會用として作られてゐる。題材は舊約聖書創世紀第一章と第二章及ミルトンのバラダイス・ロストから得てヴァンシユヴィーテンが獨文の歌詞に作り上げた物で、作曲は一七九七年……九八年に至り初演はウィーン市劇場で一七九九年三月十九日に行はれ、それ以來名大作として現今も尙絶えず演奏されてゐる全體は三部に分れる。

第一部「天地自然の創造」より
1、合唱と三重唱「天地自然の創造の讃歌」

エスカミリオ 闘牛士
指 導 バリトン本四 藤村晃一
伴 奏 長坂好子 教官
生徒オーケストラ

「カルメン」は佛蘭西の文豪メリメの小説に取材したもので、登場する人物も又事件もすべてスペインを背景としてをり濃刺とした生氣と、情熱に溢れたスペイン特有の色彩をもつたものである。

作曲家ジョルジュ・ビゼーは一八七五年（明治八年）三月三日パリのオペラ・コミック座で行なわれた初演の評判が餘り良くないので失意の中に病氣になり、三十七歳の若さで夭折した。もつと長く彼が生きてゐたならば、この様な傑作を更に數多く作つた事であらう。

このオペラの持つ獨得のメロディ、快いリズムは聞く人を魅きつづけには置かない。

又管絃樂の部分が變化極まりないハーモニイや、轉調の巧妙さ等々最も秀れた管絃樂法で扱はれてゐると云ふ事もこの歌劇の長所であるが、今回は都合上、管絃樂伴奏による事が出来ず、その眞價を知る事の出来ないのは遺憾とする處である。

第一幕ヨリ

「ハバネラ」の唄—ミカエラとホセの二重唱

セギデリヤの唄

スペインのゼヴィラの町の煙草工場。こゝには兵士が交替に監督に来る。煙草工女のカルメンは、この仲間に嬌名を謳はれてゐるあばずれ女で、警備に來てゐる伍長ドン・ホセに對して自分から誘ひをかけて有名な「ハバネラの歌」を歌ふ。

その後ミカエラが來てホセとの清らかな二重唄になり、ホセの母からの便りを渡して去る。

工場で喧嘩をして朋輩を刺した爲に捕へられてホセの監視の下に置かれたカルメンは「セギデリヤ」を歌つてホセを誘惑し縄目を解

かさせて逃げてしまふ。

第二幕ヨリ

ジブシーの唄—闘牛の歌—カルメンとホセの二重唱—花の歌—カルメンとホセの二重唱

ゼヴィラの町はづれの酒場でカルメンは仲間のジブシー女フラスキータ及びメルセデスと「ジブシーの唄」を歌ふ。そこへ闘牛師の花形エスカミリオが登場し豪快な「闘牛の歌」を歌ふ。その後でカルメン、フラスキータ、メルセデスの三人と密輸入者のレメンダーとダンカイロの五人で有名な五重唱を歌ふ。

カルメンはホセを密輸入者の群につれ込まうとして誘惑し二重唱が歌はれる。

第三幕ヨリ

「カルタの唄」のトリオ—ミカエラの唄—ホセとエスカミリオの二重唱、カルメン、フラスキータ、メルセデスがカルタ占ひの時に歌はれる唄で、そのあと、ミカエラがホセを連れもどすために來てミカエラの唄を歌ふ。

エスカミリオがカルメンと交際してゐることをホセに喋つたことにより決闘となり花々しい二重唱が歌はれる。

第四幕ヨリ

エスカミリオとカルメンの二重唱—ホセとカルメンの二重唱—花形闘牛師エスカミリオはカルメンをつれて現れ愛情に燃えた二重唱を歌ふ。

ホセはカルメンにもう一度愛してくれる様にと頼むがカルメンは承知しない。そして彼から贈られた指輪を投げつけるので、ホセは絶望の餘り、つひにカルメンを刺してしまふ。

この凄蒼な場面が息づまる様な二重唱によつて歌はれる。

交 曲 第五番 ホ短調作品九五

新世界より

ドウヴォルザーク

金子 登

解 説

現在この交響曲を以つて有名なドウヴォルザークは彼の生存中むしろ八ツのオペラ或ひは他の管絃樂曲・合唱曲の作家として有名であつた。

この曲が人々の評判になつたのは今世紀になつてから國民音樂が重要視されてからである。

ブラームスと殆んど同時代に活躍した彼はブラームスのドイツ民謡を主題として取扱つたのと同じ様に彼の祖國ボヘミア（チエツコ）の音樂をその曲に反映させてゐる。一八四一年ブラハで生れ、生活の爲スメターナの指揮してゐたオーケストラでヴィオラを弾いてゐた彼は、當然スメターナの國民音樂の影響を受けてゐる。併し彼自身はブラームスに興味を持つてゐた。

一八九二年—五年の間ニューヨークの國民音樂院 National Conservatory of music of New York の校長をして居る間に彼はニガラの靈歌 Spiritual に興味を持ち一八九四年（或ひは九三年とも云はれる）この曲を作曲し十二月十五日フィルハーモニツ・クツ

日本畫及圖案用繪具
白百合印一號胡粉

飯坂繪具店

下谷區谷中坂町二番地
電話下谷(83)二六二二番

サイアターで初演した。

彼の作品中かゝるニガラのメロデーを持つたものは他に作品九十六のクワレツト十七のクインテツトのみである。此等の作品がニガラのメロデーに取材した事は間違ひ無いが而しその底には彼の祖國をも藏してゐる。

交響曲第五番「新世界」よりは普通の交響曲形式を以つて成つて居る。

第一樂章 Abagio: — Allegro Molto 4 emoll

二十三章節の導入部持つたソナタ形式によつて書かれてゐる。

先づチエロの弱く不安定なシンコペーションを持つたメロデーがバス・ヴィオラを伴つて現はれる。（註一）

同じメロデーをフルートがオボエ・ファゴットを最後に奏する。

このメロデーの中にあるシンコペーションは後に出てくるテーマの動機を豫想させる。そしてこの動機は全絃のユニゾンにより突然フルートで荒々しく奏される。次にヴィオラ・ホルン・チエロによりテーマを豫想させる樂句が二度違つた調子にて奏されアレグロ・モルトの主部分に導入される。（註二）

不安定な感じのするこの導入部は充分に次の主部分への導入をなしてゐる。

主部分はホルンの奏するテーマによつて始められる。（註三）この二ヶ所にシンコペーションを持つてゐるのがニガー・メロデーの特徴である。このテーマを受けてクラリネット・ファゴットが出て來る。（註四）この樂句が發展されつゝ第二テーマがフルート・オボエによつて奏される。（註五）

このテーマが漸次變化されつゝ副主題がフルートによつて現はれる。（註六）

此は上掲のニガースピリチュアル Swinglow Sweet chariot から採つたものである。

ふのぐ
筆
畫紙

の御用は

得 應 軒

下 谷、谷 中

之はヴァイオリンに続けられそのメロディの間に荒いチエロのモチーフが對蹠的に這入ってくる。(註一六)

以後最後に至る迄何回か第一テーマが固執されるが第二テーマの副主題(註一七)の樂句等以上の諸樂句を發展させたと思ふ。細い多數の樂句及び第一・第二・第三樂章のテーマを混合して展開させ全交響曲の最終樂章として全交響曲の最終樂章として全交響曲の性格を益々強めてゐる。

最後に比較的短い反覆部とコーダを以て終る。

全樂章を通じてその用ひてゐるテーマは多く五音階によつてゐる。彼の用ひてゐる和聲はすべてドイツ的な三和音で、ブラームスの用ひたものと同じであるが、その用法はブラームスが和聲の必然性を以てしたのに對し彼は色彩的効果を主にしてゐる。スメタナの國民音樂の取扱ひ方が素朴に且つ直接的に(併し勿論藝術的にではあるが)國民的要素を反映してゐるのに反し彼は國民的要素も直線的ではなく一應純音樂を通して現はしてゐる。この交響曲にしても黒人のアメリカを感じてもそのみを感じるわけでは無い。即ちその丈各國から愛されるのである。彼の國民音樂への態度を思ふ時我が國の國民音樂の考へ方への示唆に富んで居る。

「新世界より」解説

以上迄の主題提示部が古い交響曲形式と同様反覆されて發展部に入る。第一・第二・副の三主題が木管・金管又は弦にその形のまゝ又は動機のみ、そして時には對旋律を伴つたりして發展されて反覆部に移る。反覆部に於いて第二テーマは短調で初に第二フルートのみで奏され副主題も變イ長調にて第二フルートによつて吹かれる。コーダは全管絃最強音の中にトロンバ及びトロンボリンにより第一テーマと副主題が組合されて奏されつゝ始まり單純なカデンツを効果的に繰返しつゝ終る。

第二樂章 Largo C desdur

變二長調への尙入の爲六ケの和音の連結が金管及びクラリネット・ファゴットによつて非常に効果的に用ひられ絃に移される。次に有名なテーマがイングリッシュホルンによつて奏される。之は現在でも聲樂曲として人々に愛唱されてゐる。(Going home)(註七)

次に又最初と同様な和音の連結が木管部に現はれ絃がそれに續き主題の短い發展をなし又イングリッシュホルンについてホルンに主眼が移り後 Un poeppu Morro になりフルート・オボエによる焦燥的なメロディがヴァイオリン及びヴィオラのトレモロに伴奏されながら奏される。(註八)

そして poco meno mosso になりクラリネットによるメランコリックなメロディがバスのピッチカートに伴奏されながら奏される。(註九)

それをフルート・オボエが受けて後又 poco piu mosso になり今度はヴァイオリンにメロディが移り木管部が對旋律及び伴奏をなし同様な形にて又 meno となりそれが終ると又變二長調即ち原調變二長調となりオボエの極めて輕快なスタッカートメロディが始められ全管絃へと尙かれて第一樂章の第一・副の二つのテーマが第二樂章のテーマと共に現はれる。そして又最初のイングリッシュホルンの獨奏となり六ケの和音の連結がトロンベツトを除いて最初と

同じ色にて奏されそれが木管の奏音部に移り靜かに終る。

第三樂章 Scherzo Molto Vivace 4 e-moll

スケルツォの形式によつてゐる。最初この樂章のモチーフを持つた四小節の導入句によつて始められテーマはフルート・オボエに與へられクラリネットが一小節遅れて續けてゐる。(註一〇)

我々はこのテーマにも黒人の匂ひを感じる。次に絃に主題が移され後全管絃によつてテーマが奏される。以上が二度反覆されてホ長調の挿入句がエキゾチックなエピソード的なメロディをフルートでオボエにより次にクラリネットのオクターヴにより奏され(註一一)

故管樂器の細い連續管に伴奏されてチエロが受け繼ぎ突然又前のテンポに歸へり漸次全管絃となり、スケルツォの部分を終る。そしてスケルツォのテーマを用ひつゝ第一樂章の第一テーマをチエロ、ヴィオラにて想起し巧みにトリオと云はれるべき部分に入る。このテーマは常に木管に與へられ踊る様な輕い感じを表現してゐる、スケルツォのテーマである。(註一二)

續いて次のテーマがト長調で始まり後木管に移り、(註一三)又前のハ長調のテーマが奏され短い連續樂句を経て Da Capo してコーダに入り第一樂章のテーマとスケルツォのテーマと交互或は一緒に奏しつゝ第二樂章を終る。

第四樂章 Allegro con Fuoco 4 e-moll

この樂章は不完全な形式のソナタ形式である。

第一樂章の初めに現はれた全絃の強いユニゾンで奏されるモチーフを先ず最初に用ひ、漸次ホルン及びトロンバにて奏される第一テーマへと導かれる。(註一四)

そのテーマは全絃合奏により受け繼がれ次に木管及びヴァイオリンにより同じテーマが奏されて後絃の三連音符によるリズムの強い性格的な荒いエピソード的樂句を経てクラリネットの奏する靜かな第二テーマが現はれる。(註一五)

11月12日(火)午前10時開演

東京音楽学校奏樂堂

1. 混聲合唱	美しきエレン	ブルツフ	指揮	官徒子郎哉弘
2. ソプラノ獨唱	小夜曲	シューベルト	伴奏	城多兵衛
3. 作品發表	歌劇「椿姫」より乾杯の歌	ヴェルディ		城多兵衛
	ヴァイオリンソナタ			城多兵衛
		ヴァイオリン		城多兵衛
		ピアノ		城多兵衛
憩				
4. アルト獨唱	夜鶯に寄す 作品四六ノ四	ブラームス	伴奏	菊池眞理子
	永遠の愛に 作品四三ノ一	ブラームス		菊池眞理子
5. ヴァイオリン獨奏	レゲンデ	ウイニアウスキー	伴奏	加藤るり子
	オベルタス	ウイニアウスキー		加藤るり子
6. ソプラノ獨唱	歌劇「蝶々夫人」より 或る晴れた日に	プッチーニ	伴奏	加藤るり子
	歌劇「トスカ」より 歌に生き戀に生き			加藤るり子
7. ピアノ三重奏	作品四十九	メンデルスゾーン		加藤るり子
	モルト アレグロ アデタート	ヴァイオリン		加藤るり子
	アンダンテ コン モート	トランクイーロ チエロ		加藤るり子
	スケルツォ			加藤るり子
	フィナーレ(アレグロ アツサイ アパシヨナート)ピアノ			加藤るり子

東京美術學校展覽會

會期

十一月八日—十二日（五日間）

學校收藏品展覽會・表慶館・陳列館
教官・學生展覽會・陳列館・本館
その他

收藏品 解説目録

帝室博物館表慶館
學校陳列館一階

（順序不同）

竹林嘯虎圖

雪村 室町時代

永錄元龜年間の人、禪僧で周文の筆意を慕ひ又雪舟の筆意を學んだ。雪舟の畫風に能く似て居り、晩年に宋元の名家牧溪、顔輝等の畫風を學び終に新意を世に示して一家を爲した。又那須紙を料紙として世に雪村紙と云はれるのは是である。

金地松二鷹屏風

永徳 桃山時代

西一五四二—一五八九

狩野家五代の人で世に古永徳と稱せられる。畫法を父に學び、又祖父元信の筆蹟を慕ひ、その畫く所の山水花鳥、人物、鳥獸等悉く巧であつた。就中大畫に秀でて居り、よく桃山文化 特質を發揮して居る。

悲母觀音

芳崖 西一八二八—一八八八

白雲紅葉

雅那 西一八三五—一九〇八

竹金鶏芙蓉鴨双幅

雪村 室町時代

竹林七妍

勝川春章 江戸時代
（天明寛政の頃）

其の一流をくむものである。

孔雀明王像

鎌倉時代

孔雀明王像に遺存するもの尠く有るものは必ず名品であると云はれてゐる。現存する主なるものは畫像には原家、侯爵井上家、東京美術學校、安樂壽院、松尾寺、河野家の諸藏品並に智積院の一本があり彫刻には金剛峯寺藏品がある。之等は其の圖相殆んど一致し持物の形衣裳の文彩等を異にする他、凡て像、孔雀共に正向して居る。

山水圖

曾我紹仙 室町時代

凡そ四〇〇年前永正頃の人、越前の人。

林和靖圖

小島亮遷 室町時代

西一五五〇年頃、越前の人、周文に學び山水花鳥人物を畫く、亮遷の今日に名ある作例は此の一點以外に無く天文八年頃の筆と思はれる。

臨濟一喝

遮莫 室町時代

畫僧、月船と號し周文に學ぶ。畫風は略相似て居る。今日残るもの其の數多し。

臨濟截松

道安 室町時代

山田道安、西一五七一年歿、和州山田城主で周文、雪舟の畫風を慕ひ、後に宋人の畫風を追慕し其の意を得、多く果物類を繪く、元龜二年戰歿した。

山水圖

鑑貞 室町時代

墨溪と號し畫僧なり。周文に學び宋人梁楷の筆意を追慕して大に研究す。山水人物を能くす。

西一七二六—一七九二
旭朗齊、李林等と號す。歌舞伎俳優の似顔、及五人男の圖を能くし又武者繪に巧であつた。

佐藤一齊像

椿椿山 江戸時代
（末期）

西一八五一—一九〇四

粟 鶉 圖

土佐一得 江戸時代
（初期）

一得或は一徳と號す。一には光吉の門人で慶長年中の人と云はれ又土佐家の累葉で光吉の弟とも云ふ。

繪卷 殘 缺

室町時代

國寶彌勒來迎圖

鎌倉時代

本圖に鎌倉時代後期の作と思はれ明惠系統の僧侶間に造作せられたものと見るべきであらう。彌勒來迎圖に本圖以外には覺禪鈔本、稱名寺金堂壁畫其の他一二を數へるには止まる。

國寶羅漢圖（二幅）

宋時代（南）

探幽の「羅漢張思筆」の題簽が貼付されてゐるが傳來其の他不明である。所謂李龍眠様「六羅漢」圖柄のものである。中華に於ては五代から宋にかけて極めて多數の羅漢畫が作られてゐるがこれも

觀音圖

靜山 室町時代

岡倉天心像下繪

下村觀山

此の圖、下村觀山氏が明治美術界の三恩人芳崖、天心、雅那の肖像畫制作を企圖、大正十一年の院展に出品された「天心先生」の草稿であるが天心歿後十年の作であるから臨寫ではない。此の草稿も觀山氏がハーバート大學のワーナー氏に贈られたものであるが、原本を失はれてゐる事を知られた（大正地震の折焼失）ワーナー氏は米國ハーバート大學の東洋部の名をもつて東京美術學校に之を寄贈されたものである。明治以來日本畫の肖像畫の少ない中に藝術的に極めて優秀な作品として尊重される。

國寶繪因果經

奈良時代

因果經とは、詳しくは過去現在因果經と言ひ、釋尊の過去及現在（生身）の因果を説いた經文である。之に經文の繪解を付したのが繪因果經である。因果經は天竺の僧永那跋陀羅が劉宋の時中華に於て譯出したもので普通四卷本であるが此處に陳列せるものは、その第四卷に相當する部分である。

國寶雪見御幸繪卷

鎌倉時代

白河院が小野の雪見に皇太后を訪ねんと思ひ立たれ、隨臣が之を皇太后に急報する。院は御幸になり庭で雪を眺められ、その日の御もてなしの御禮として美濃國の一所を御領としておさづけになつたと云ふ古今著聞集等に出て來る話を繪卷としたものである。筆者は土佐經隆とも傳へられてゐるが確かな事は不明である。鎌倉後期の作であらう。

白描人物下繪金光明經

鎌倉時代

俗に目無し經と云ふ。それは下繪の人物に目鼻が描かれてない所

からの名稱である。もと醍醐の三寶院の什物であつた經卷が今は散佚して主として神光院に其の他斷卷となつて多數にある。此所に陳列せる一紙も其の類である。製作年代は神光院本の奥書により建久三年頃の作と考へられる。

梵文陀羅尼地白描人物

鎌倉時代

金剛界圖像殘缺

鎌倉時代

四季草花卷物

南岳 江戸時代

西一七六七—一八一三

岡山派の畫家、岡山應舉に學び後に尾形光琳を慕ふ。文化十年歿す。年四十七。

譽栗圖寫生卷

平福百穂

百穂が寫生に精進した事は有名であるが、此の圖は昭和八年六月六日朝より十八日に互る間譽栗の蕾より結實迄を忠實に寫生したもので百穂最晩年の作に屬する。

不動明王

芳崖

ヨツ

藤島武二

靴屋親爺

原田直次郎

蛙

高橋由一

池

藤島武二

婦人像

藤島武二

他に特陳(ルノワール等)數點

繩卷文殊

黃不動

普賢菩薩及十羅刹女

藤原時代

藤原的なものとして即ち典雅優雅なものとして、時代の藝術精神を典型的に表現せるものである。普賢菩薩も十羅刹女も共に法華經に説かるゝところ、且つ法華經受持者を守護せんと誓ふ點に於て相一致するものであるから、是の姿を以てしてかゝる圖樣が創造せられたと考へられぬではないが、更に女人減罪思想と當代藝文の女性の勢力から見ても、女性の信仰を受けるに恰好な形相は此の信仰の一要素と考へられる。大陸の遺品には本畫題をとるものなく、殊に和裝女官の態をとる十羅刹女の圖樣は當代文化の特質を物語つてゐる。圖の下邊には經文誦讀の道俗を附屬して法華經講讀を現はしてゐる。

貝畫

土佐光起 江戸時代

土佐光起は土佐宗家の畫家、(一六一七—一六九一)土佐三筆(光長・光信)の一人なり。二十二にして父を喪ひ祖父光吉の門人某に就て畫法を受け、又先世の名畫を追慕し、兼て和漢諸名家の奥儀を窮ひ勉強琢磨終に名手となる。

殊に李安忠の圖に倣ひて鴉を畫くに巧なり。元祿四年九月二十五日歿す。年七十五。

傾城・藝妓二幅

春章 江戸時代

浮世繪を畫き、又畫を能くす。初め嵩谷に學び歌舞伎俳優の肖像を善くす。又武者繪巧なり。寛政四年歿す。

傾城

豐春

江戸時代

豐春は一龍齋と號し、又潜翁、松爾樓と號す。鳥山石燕豐房の門人なり。畫風善く鳥居風を寫し出して妙なり。又西洋の畫法により浮き畫を畫き、浮世繪にして發行し大に行はる。文化十一年歿す。年七十八。

傾城

春章

江戸時代

神護寺紺地金泥大智度論

藤原時代

紺紙金泥の一切經である。古來傳へて鳥羽法皇の勅願で後白法皇が御父王の御遺志をついで完成御寄進になつたものといふ。何等記録が存しないのでその年代を知るに由ないが、當時のものたることは明かである。之を冷泉朝隆の書寫と傳へてゐる。見返の説法圖等は粗筆ではあるが、線條の強い佳品といふべきで、自ら他との見分がつく。

此の經は由緒を傳へてか徳川初期頃には仁和寺一品親王、大覺寺二品親王の管理によつて蟲拂定が設けられ、毎年六月に行はれ嚴重に保存されてゐた。寛政六年の經目錄によれば四千七百二十二卷八十櫃を傳へてゐるが、明治廿年盜難にかゝり或は堂塔修理の爲多く出藏し、今は二千三百三十卷を藏してゐる。内題の下に「神護寺」の朱印があるが之は後世の捺押である。

柳下鬼女

蕭白

江戸時代

蕭白は初畫法を高田敬輔に學び、後に雪舟の風を修めて遂に一機軸を出せり。其山水人物を畫く悉く水墨を以てす。筆意頗る勁健にして人意を豁かす。殊に人物の圖に至りては形容生動の趣ありて紙

外に溢る。天明元年正月七日歿す。

釋迦三尊圖

一之

室町時代

其僧にして江藏主と稱す。畫法を明兆に學び能く師風に似る。佛像・人物を能くす。最も墨畫に長ず。筆力秀潤にして風致あり。應永年間の人。

鶯

芳崖

大佛開眼

廣業

字は惟勤・荷舟と號す。石崎融思の門人なり。後好みて秋谷を倣ひ花卉人物を能くす。

經政詣竹生島

賴音

佛誕

觀山

伊香保の沼

映丘

水鏡

春草

六曲鳳凰

常信

美術學校陳列館一階

江戸時代

銅造菩薩倚像

奈良時代

國寶銅造菩薩立像

奈良時代

乾漆月光菩薩像

奈良時代

木造毘沙門天像
木像着色立像高サ三尺一寸九分
貞應三年の銘あり。

定慶作 鎌倉時代

木造大日如來像

快慶作 鎌倉時代

醍醐寺板繪

藤原時代

鑄造若王子權現懸像
仁安二年九月二十七日銘あり。

藤原時代

國寶淨瑠璃寺吉祥天厨子屏板繪

藤原時代

此の屏板は凡そ七面、正面外側に竹雀圖、同内面梵釋二王、兩側に四天、裏板内面に辨才天及諸神よりなる。

製作年代を知る資料誠に乏しいが、現存する淨瑠璃寺流記、淨瑠璃寺縁記等を見るに「建曆二年吉祥寺奉渡本堂云々」とある。此等史料の説く所は吉祥天に關するのみで、厨子に觸れる所無いが、樣式上同時代の作と見られる。其の構圖及諸天の様相は天平の古式を遂ふも、其の細部の技法は藤原時代末期に近い特色を示してゐる。

木造彩色技藝天像

竹内久一様

菊桐文時繪文宮

桃山時代

群千鳥文様丸巢

室町時代

獅子文時繪胡縁

鎌倉時代

忍草時繪花形連

室町時代

梅文時繪扇稻

室町時代

兎時繪紅葉香合

室町時代

波二千鳥時繪八角形連

室町時代

和歌浦圖時繪硯箱

江戸時代

獅子牡丹文様硯箱

鎌倉時代

堆朱喰籠

明時代

存星喰籠

明時代

中華に於ける漆藝の一種で、文様の外形を劃し、その内側を彩漆彩油等にて着色し、或は彩漆を嵌入して砥出す等の技法のものを我朝にて特に存星と云ふ。恐らく我國茶人のつけた名であらう。東山殿飾書にも其の名が出てくる。

鹿忍草時繪文箱

江戸時代

龍文様存星香合

明時代

布袋圖堆朱香合

明時代

牡丹文堆朱丸盆

明時代

密陀繪軸盆

江戸時代

密陀繪蘭秋海棠圖軸盆

明時代

猿鬼文様 繪印籠

鹽見正誠作 江戸時代

正誠は京都の人、春政の子にて、寛永享保の頃、世に當意院時代と稱せられる工藝隆盛期に於ける名工である。最も砥出時繪に妙を得て一家を爲す。之を鹽見時繪と稱す。技術精巧にて美麗なり。繪畫をも能くし、其の書風は狩野派に似て、自ら一機軸を出す。

月ニ青海波文様時繪印籠

青海勘七作 江戸時代

勘七は元祿年間江戸に住し、漆工を業とす。名匠にて一種の髹法を創意す。即ち特殊の刷毛を用ひて華紋を顯はす。波紋を書くに妙を得、高尚にて風致あり。人呼びて青海波と云ひ各種の裝飾に應用せらる。性格磊落にして好んで畫家俳人と交はる。

壽字丸紋散シ時繪印籠

江戸時代

高松御庭燒欄干擬寶珠

埋平作 江戸時代

鑄造鶉香爐

龜女作 江戸時代

國寶八稜鏡藏王權現毛彫

藤原時代

藏王權現鑄出懸佛斷片

藤原時代

國寶八稜鏡佛像毛彫

寛弘四年在銘 藤原時代

金峯山藏王權現、金峯山は吉野の南に位する大峯連峯の總稱であり、此處は古く奈良時代より佛道修行者の特殊な地域として有名であつた。後には役行者と金峯山とを結付け修驗道場として益々その地位を高めて行つた。金峯山信仰が一般化し遺物の上にもその信仰狀況が明かとなつて来るのは平安時代以降である。御堂關白道長が都より當山に登り、自書の經卷を埋納したのは其の寺の有名な話で

ある。この山の信仰は山上の藏王權現を中心として勝平明神・子守明神・金精明神等一山の神靈を配合させ、こゝに本地垂迹神佛融合の山嶽信仰を構成せしめたのである。故に金峯山に發掘される遺物も之等信仰を表現した物が多い。即ち胎藏界釋迦院の釋迦所變の致令輪身なる金剛藏王の圖像を現はせるは、出土の佛像類の過半を占む。此處に陳列せるものはその一類である。

韋駄天足疾鬼圖赤銅目貫

四代後藤光乗作 桃山時代

金銀色繪獅子文香合

九代後藤程乗作 江戸時代

蟹文赤銅目貫

宗興・宗現作 江戸時代

獅子文赤銅目貫

宗興・宗現作 江戸時代

赤銅地金色繪岩牡丹小柄

宗現作 江戸時代

獅子文金目貫

宗現作 江戸時代

蓬來山文様銅鏡

室町時代

鍛造真鍮真道具

二代安親作 江戸時代

片切彫秋草圖手板

加納夏雄作

片切彫鳥圖手板

加納夏雄作

銀地金赤銅龍銀象嵌香魚圖手板 海野勝現作

銅地金銀龍銀象嵌草花圖手板	海野勝瑠作	藤原時代
松藤蝶鳥文銅鏡		藤原時代
唐草雙鳳文五花鏡		藤原時代
唐草雙鳳文八稜鏡		藤原時代
日薩摩燒仙棧瓶		江原時代
古瀬戸巴唐草印花文瓶		鎌倉時代
牙彫牧童圖額	石川光明作	
淨瑠璃寺吉祥天厨子飾草具		藤原時代
三彩 馬		唐時代
三彩 華文盤		唐時代
銅製 犬		秦時代
變様羽狀地心葉文銅鏡		秦時代
山岳鉤内行花文四乳鏡		漢時代
金錯雲鳥文鐵鏡		漢時代
狩獵文金銀平脱鏡		唐時代

鳥獸文金背鏡	唐	時代
鳥獸葡萄文銀背六花鏡	唐	時代
銀平脱銀平脱方鏡	唐	時代
細金細工簪	唐	時代
細地文銅鐸	秦	時代
金錯牛頭形帶銅	秦	時代
金銀錯嵌玉帶銅 三	漢	時代
帶銅 秦と漢に於て多く使はれた帶金具であつて、一種の尾鉤の役をなしてゐたものと推せられる。背部の突起を挿入して帶に付けたもので、突起の上面に印章に使用したと思はれる象形を有する事がある。多く青銅製で金・銀・玉等を嵌り入せるもの、或は玉製のもの等あり、いずれも精巧を極めてゐる。		
菊時繪耳盞	鎌倉五山淨智寺舊藏	鎌倉時代
百萬塔及陀羅尼	奈良	時代
秋草時繪料紙箱	桃山	時代
藍釉 牛	唐	時代
三彩 婦人像	唐	時代

彈阮成大理石婦人像	唐	時代
白色土器破片	傳殷墟出土	殷時代
三彩 馬形容器	唐	時代
三彩 駱駝	唐	時代
國寶金錯銅管	樂浪出土	

樂浪郡時代の一古墳より發見されしものにして、長さ八寸四分、徑一寸一分五厘、厚さ四厘にして三處に節狀を作りて全體を四層に分ち、特に中央の節を稍と廣くしてゐる。各層には金錯（金象嵌）にて山岳・樹木・禽獸の圖様を作つてゐる。その技工の細巧にして雄渾瑰麗の妙を極めたる更に古今の絶筆である。筒の上下兩端の周縁には象嵌にて鋸齒文を作つてゐる。内部に木製の柄の如きもの遺存し、管以外の部分は既に腐朽してゐる。何に使用されたかは不明である。

樂浪郡時代の古墳より發見されしものにして、長さ八寸四分、徑一寸一分五厘、厚さ四厘にして三處に節狀を作りて全體を四層に分ち、特に中央の節を稍々廣くしてゐる。各層には金錯（金象嵌）にて山岳・樹木・禽獸の圖様を作つてゐる。その技工の細巧にして雄渾瑰麗の妙を極めたる更に古今の絶筆である。筒の上下兩端の周縁には象嵌にて鋸齒文を作つてゐる。内部に木製の柄の如きもの遺存し、管以外の部分は既に腐朽してゐる。何に使用されたかは不明である。

東京美術學校 運動會及假裝行列 プログラム

會場 東京都々營 上野公園グラウンド
日時 十一月十二日 午前九時

プログラム

開會（午前九時）

一、聖火到着

一、開會の言葉

一、運動競技開始

第一部	1	綱引	美・音（男女）	百米
	2	二人三脚	美・音對	百米
	3	メクラ騎馬戰	美	
	4	ゼスチユア競争	美・音	二百米
	5	イモクヒ競争	美・クラブ	百米
	6	煙草吸競争	美・音	百五十米
	7	二人三脚	音	百五十米
	8	ムカデ競争	音	五十米
	9	綱引	美・音（教師對）	
	10	ラクビ	O B 對	

野外演奏及特別競技

第二部

11 パンクヒ競争	美・音對	百米
12 嫁取り競争	美・音對	百米
13 リレ	美・音對	千米

14 假裝競技開始

15 行列行進

16 運動場に戻り閉會

以上



千代田印刷工業株式會社

藝術界の印刷物は

千代田へ

日本橋區蠣殻町壹丁目四番地

電話茅場町(66) 1667・2791

營業品目

樂器・樂譜・樂書

レコード・ラヂオ

◇各種絃、總譜多數取揃てあり

銀座散策の折は是非當店へ

キングレコード大賣捌元

株式會社 山野樂器店

東京都銀座五ノ二

(鳩居堂ビル三階)

電話銀座(57)四四二九番

小賣部 東京都銀座二ノ二

(シバタ店内)

電話京橋(57)六三三五番
(六三三六番)

昭和二十一年十一月七日
昭和二十一年十一月八日

印刷
發行

編輯
音美校校

村井眞一

裝幀
美校

一噌元治

東京都日本橋區蠣殻町一ノ四

印刷所

千代田印刷株式會社

東京都下谷區上野公園

發行所

東京美術學校々友會

東京音樂學校學友會

文房堂の洋畫材料

工場焼失ノ爲メ繪具ハ未ダ製
品ハ出來マセヌコトヲオ詫ビ
申シマス

材料ニ於テ次第ニ充實シテマ
イリマス

倍舊ノ御引立ヲオ願ヒ致シマ
ス

東京神田

文 房 堂

化 粧 品

裝 身 具

喫 煙 具

玩 具

食 糧 品

鐵道弘濟會

上野廣小路313

和 洋
樂 樂
器 取 揃 へ

譜本も豊富にございます

近日銀座新店舗を開店致します



銀座

松

屋